



▲ 檜峠近くの鎌倉古道



安曇山岳会
会長 次田 経雄

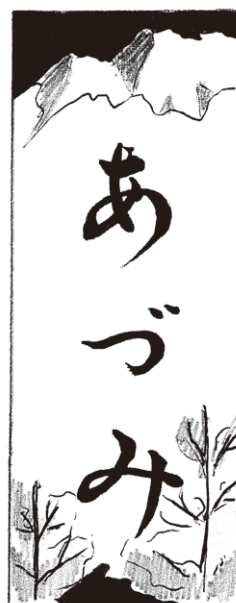
登り着いた檜
峠は十字路
薄日の晩秋路
だった。

昨年が続いての「アルプス越えの鎌倉街道」探訪。今年度は11月23日。セバ谷く池尻く沢渡く檜峠く沢渡のやや変速的道順。積った落葉を掻き分けながらの、古を偲ぶ一日だった。

出発は白骨温泉。小一時間ほど旧スーパー林道を歩き、セバ谷橋手前から隠れ道的杣道をセバ谷貯水池へと下降した。池から先は古の雰囲気が残るつづら折りを湯川へと下り、橋を渡り、武田信玄砦跡の案内碑のある小峠から池尻。さらに沢渡へと史

跡道を辿った。沢渡から檜峠へのフィナーレはやや不明瞭な谷沿いの古道。夫々に思いがあつての旅であろう古の旅人の胸の内や、武田騎馬軍兵士の鎧の触合う音など、そんな風情が古道に重なつての沢沿いからの峠道。

鎌倉街道トレッキング
「セバ谷く檜峠」
主催 安曇山岳会・安曇公民館
11/23



● 安曇地区 ●
693 世帯
男 692人
女 690人
合 計 1382人
R3 .1.1 現在

乗鞍高原 年越し花火大会



地域を励ますことを目的に、大野川地区の有志が中心となつて「地域活性化プロジェクトチーム」を立ち上げました。

三密を避ける。宿泊業の人も参加しやすくする。等、様々な事情を考慮した結果、夜のスキー場での花火を実施することとなりました。

当日は、大野川区出身の歌手高橋あず美さんのミニコンサートで幕を開け、年越しのカウントダウンと同時に、乗鞍高原の夜空に、見事な花火が咲きました。協賛いただいた方々には、この場をお借りして感謝申し上げます。

あづみくまのついで⑤

齋藤 佳代 (大野川区)



2019年に結婚を機に乗鞍高原に引っ越しました。

私は伊那市で生まれ育ち、進学を機に上京し、将来再び長野県に住む事は、正直思ってもいませんでした。

ですが、山のある暮らしが好きで、今後は自身のスキルで長野県の為に何かしたいとUTターンを決意。乗鞍暮らしは、季節を身近に感じられて、ふと目にとまる景色が絶景で贅沢だし、心が豊かになります。また出会う人が皆逞しく个性的で、ここで暮らしているからこそその魅力が溢れていて素敵です。

この度息子が誕生し、共に乗鞍中を遊び回る日が来るのが楽しみです。

この暮らしに感謝し、豊かな自然と生活を紡ぎ継いでいきたいです。

あづみ見る・知る in 白骨温泉 安曇の宝を見に行こう！

主催 安曇公民館
文化財課

11/12

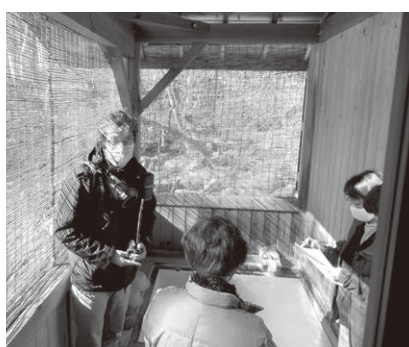
今回は自然環境に関わる分野で幅広く事業を展開している株式会社BO-GAの市川哲生さんを講師にお迎えしました。

乗鞍高原温泉では、火山由来の硫黄分を含んだ、せせらぎの湯に触れ、白骨温泉では、炭酸カルシウムを含んだ飲泉所のお湯に触れ、泉質の違いや繋がり、成り立ちについて学びました。

これらの温泉は大変貴重な資源です。近すぎてあまり行く機会が無い方も、安曇の宝にぜひ訪れてみませんか。



▲ 白骨温泉 重小屋原にて噴湯丘観察



▲ 乗鞍高原温泉と白骨温泉の違いを体感

安曇小中学校

「職場体験を振り返って」

僕は、職場体験学習で、映画館の「松本シネマライツ」で体験させていただきました。

なぜ僕が映画館を選んだかというと、普段映画を観に行きたときには見ることができない場所や仕事など、映画館の裏側ではどのような仕事をしているのかを知りたかったからです。

まず、体験を始める前に、映画館の作りや仕事をするところなどを教えてもらいました。そのあと実際に、受付の仕事「フロア」をやらせてもらいました。

一日目は、清掃、検温、映画を見た人に特典を渡すための「ピーコン」の設置を経験しました。特にピーコンの設置は、映写室に入り仕事をする初めての体験だったのでとても新鮮でした。映写室は思っていたよりも広く、暗かったです。

二日目は、一日目と同じ仕事の他に、チケットチェックや入場特典の配布を体験させてもらいました。チケットチェックでは上手に素早くチケット

を切れるか心配でしたが、自分なりに上手に出来たのでよかったです。

この二日間の体験を通して学んだことは、仕事をする上では時間がとても大切だということ、映画館の裏側では大変だけれども大切な仕事があるということ、僕は、働くということ、自分のためだけではなく、自分ではない他人を楽しませる事ができることだと感じました。

このことを、これからの自分の進路や将来に役立たせていきたいです。

(2年 齋藤圭吾)



安曇小中学校

元気な
安曇っ子

生徒会引継ぎを目前に控えた11月。安曇中学生徒会の3年生は、再び「全校で百人一首大会をやりたい」と企画を立ち上げました。

縦割り班で1チーム3人。先生チームもつくり、約1ヶ月間にわたり、20分間の安曇タイムで全6試合を行ってきました。

この百人一首大会期間中の1ヶ月間、学校中が百人一首一色となりました。休み時間も昼休みも百人一首を覚えたり、取り札(下の句)を見て上の句を言えるようになったり、一字決まりの札を覚えたり…と、全校が熱く燃えていました。

今回は、この百人一首大会の火付け役となった安曇中学校生徒会副会長の上松慶麒さんにインタビューを行いました。

Q 安曇祭の生徒会企画で、なぜ百人一首をやろうと考えたのですか？
上松副会長: 力の差が学年ごとに大きいのですが、百人一首は全年に差が無く楽しめると考えたからです。

Q 安曇祭が終了すると、新たな企画を立ち上げることはあまりありませんが、どうしてこの企画を立ち上げようと思ったのですか？
上松副会長: 今年はコロナの影響で、生徒集会をほとんど開くことができませんでした。全校で楽しめる活動をもっとやりたいと思い、先生に相談して企画しました。

Q 全校の反応はいかがでしたか？
上松副会長: みんな楽しんでくれたと思います。引き継いだ2年生の新生徒会でも、3学期に百人一首大会を続ける、ということだったので。

Q 上松慶麒さんはどのくらい百人一首を覚えていますか？
上松副会長: 全部覚えています。三校交流会の時に覚えた百人一首を、もう一度全部覚え直しました。

生徒総会時に2年生が「どうすればみんなをやる気にさせられるのですか?」と3年生に質問。すると生徒会長が「それは自分自身の熱量だ」と答えました。3年生の「全校で楽しみたい!」という本気と熱意が2年生にも伝わり、3学期、新生徒会がこの企画を引き続き行う予定です。



▶ひとつひとつシートの消毒作業をしています

